

新郷村の特産品の活用から

— 乳製品の消費拡大をめざす —

Concerning Promotion of the Specialties of Shingo Village

— To Expand the Consumption of Its Dairy Product —

佐藤千恵子 (八戸短期大学・ライフデザイン学科)

I. はじめに

総務省の2009年の家計調査(全国から9,000世帯を抽出)から牛乳消費量ランキングを見てみると「一世帯(単身世帯を除いた二人以上の世帯)当たりの牛乳消費量の全国平均は87.34ℓで、1ℓ入りパックを4日に1本消費していることになる。全国で最も消費量が多いのは埼玉県で105.87ℓで、2位は奈良県で105.14ℓで、3位以下は長野、岩手、神奈川県と続く」とある。そして気になる青森県はというと「40位」となっている。この結果からしても日本人の牛乳の消費量は第2次世界大戦後の食生活改善や学校給食の普及によって大きく伸びたと言っても過言ではないが、「飽

食」と言われている今日、どうやら「牛乳＝学校給食」のイメージはあるが、学校以外の場所では他の飲み物に推移しているように考えられる。そこで今回八戸大学・八戸短期大学総合研究所が企画した「新郷プロジェクト」に参加し、新郷村の特産品である「飲むヨーグルト」からその原料である牛乳に視点を置き、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人たちが乳製品を摂取することでその栄養的効果を再認識し、さらには今回の取り組みが新郷村の乳製品の消費拡大にも繋がるのではないかと考える。

II. 新郷村の地域活性の取り組み

1) 新郷村の概要

新郷村は、十和田湖の東側に位置し、西は秋田県との境に位置する人口総数2,851人(平成23年12月現在)の集落である。そのうち

65歳以上の高齢者は1,149人と村の人口の4割を占めている。対して子どもの数は337人と少なく総人口の1割強だろうか。増加する高齢者への対策として村では「地域見守り隊」

というユニークな取り組みを昨年10月からスタートさせた。もともと「お年寄りや体の不自由な方等の孤立を防ぐため、村では民生委員やほのほの交流協力員による見守りを実施している」が、今回は見守り体制をさらに強化するために青森県との共同で「いろいろな業種の事業者の方たちにも地域見守り隊員」になってもらい、たとえば訪れた家の新聞受けに何日も新聞が溜まっていて安否が心配というような異変を役場に連絡するというものである。

そもそも新郷村は昭和49年に十和田湖に隣接する迷ヶ平（まよがたい）高原が自然休養林に指定されたことで十和田湖東口の秘境コースとして注目されるようになった。また全国にいくつかある「キリストの墓」の一つがこの新郷村にもあり、県南地方の観光の名所としても知られていて、年に一度6月に開催されるキリスト祭には村内外からも観光客が訪れる。さらに観光レクリエーション施設「間木ノ平（まぎのたい）グリーンパーク」も近くにあり、キャンプ場やテニスコート、ゴーカートも兼ね備えられていて休日には家族連れで賑わいをみせている。

けれども元々は「青森県の酪農の発祥の地」として有名な村である。1933年に農家5人が酪農組合を立ち上げバターや牛乳を生産し、1956年に村内に雪印乳業の工場が操業を始めて一大酪農地帯になったとか。しかし、乳価の低迷などから乳牛から肉用牛への切り替えが始まり、村のシンボルだった工場も1978年に撤退。以来、村の酪農も下火になっていくという状況のなかで、1996年4月酪農発祥の地をPRする村の施設としてオープンした「間木ノ平グリーンパーク」の目玉商

品として売り出したのが「飲むヨーグルト」だった。

現在は主要産業として農業と畜産業があげられるが、畜産業よりは圧倒的に農業に従事する人が多く平成18年度の農業産出額をみると耕種で24億3,000万円であるが、畜産業は7億1,000万円という数字だ。そして耕種の中でも米ではなく野菜の収穫が多いことに気付く。それに対して畜産業は肉用牛と乳用牛などの産出額合計で7億1,000万円と野菜の産出額の16億7,000万円には追いつけないというのが現状だろうか。

2) 新郷村の農業

新郷村の農業就業人口は1,102人。総人口2,851人のうちの半数近い人が農業に従事していることになる。内訳を見てみると男子が481人、女子が621人で、女子の人数が多い。が、男女とも65歳以上の就業人口が男子259人、女子310人と半数を占めているという結果だから、新郷村の農業は高齢者によって支えられているように考えられる。もちろん次の世代である30～59歳の農業従事者もいるが男子147人、女子205人と高齢者の数には及ばない。（市町村別主要農林水産業指標 ① 参照）

また総農家数も577戸でそのうちの537戸が販売農家として登録されているが、専業農家は129戸、兼業農家は408戸。さらにそのうちの第1種兼業農家は176戸、第2種兼業農家が232戸となっていて、平成18年農業産出額から詳しい数字を見てみると耕種では米は2億7,000万円、野菜は16億7,000万円、果実2,000万円、花き1億1,000万円と野菜の生産額がトップである。次に畜産では肉用

牛が3億9,000万円、乳用牛2億7,000万円という数字になっている。（市町村別主要農林水産業指標 ② 参照）

以上のことから村の特産品としては鑑賞用花き、清酒「キリストの墓」、焼酎「郷の華」、新郷黒飴、長いも、にんにく、紅葉みそ、アマランサス煎餅、新郷漬物、しいたけ、山菜、飲むヨーグルト、ドラキュラアイス、荒挽きポークウインナー等がホームページで紹介されている。また今年は「郷（さと）のきみ」という品名で、とうもろこしの真空パック販売も始めたとか…。

3) 新郷村の特産品への取り組み

① 「飲むヨーグルト」

新郷村といえば「飲むヨーグルト」は有名である。その歴史については概要のところでは触れたが、一時期は村内かもしくはネット通販でしか購入できない商品だったのが、今では近くのスーパーでも買えるようになった。なぜこれほどまで人気なのか？ それは一度飲めばそのおいしさの虜になってしまうという消費者からの「声」である。開発は（財）新郷のふるさと活性化公社で、乳酸菌数が1ml当たり13億個から15億個（通常は1mlあたり1,000万個以上）と国内最高レベルとのこと。「クリーミーでまろやかな口当たり」と「発酵乳特有の酸味が感じられずほのかな甘みと濃厚な味わい」が人気の理由だ。

② 「薫りたつ牛乳」のデビュー

「飲むヨーグルト」を開発した（財）新郷村ふるさと活性化公社が今度は「本当においしい牛乳を作ろう!」という意気込みで2006年8月に完成させた商品だが、これは村内限

定販売である。「生乳本来が持つ薫りと旨みを最大限に引き出し低温殺菌で生産されているのだが、製造工程だけでなく原料となる生乳にも拘って、厳選した地元の1戸の酪農家から直送される生乳のみを使用しているため、酪農家も気を抜けない」のが現状とのこと。ちなみにその生乳を提供している方は成牛・育成牛合わせて100頭ほど飼育しているらしいが「自分の所の生乳から新郷村の商品ができるので、生乳の品質管理には気が抜けずとても難しい」らしく御苦労が伺える。

③ 「濃厚ソフトクリーム」の発売

「薫りたつ牛乳」を原料として同じ年の12月からソフトクリームが新郷温泉館で売られるようになった。原料の牛乳の質が高いため、とても味の濃いソフトクリームだとか。「一口ごとに牛乳を口にふくんだかと思うほどの濃さ」らしく一度は食べてみる価値があるかも。この他アイスクリームやチーズケーキなども紹介されている。

④ 新郷村の食材を使った「新郷フェア」の開催

八戸大学・八戸短期大学総合研究所が青森県からの委託を受けて「地域力再生・創出資源調査分析事業」の一環として企画し、新郷村の地域力の再生・創出のために八戸地域との交流を促進することを目的として「新郷プロジェクト」を結成。事業は産業振興部門と健康福祉部門の二つに分かれ、その産業振興部門のテーマの一つとして新郷の食材を使った料理の開発と商品化を期間限定ではあったが八戸パークホテル、シティパークホテル八戸で実施。

Ⅲ. 本研究の枠組み

八戸大学・八戸短期大学総合研究所による「新郷プロジェクト」への学内公募があり、それぞれの専門分野の教員や教員とゼミ学生による活動を通して村への政策提言をしていくという企画への参加をする。

1) 目的

(1) 新郷村の牛乳を使った「ミルクゼリー」の試作と販売

(2) 村内の子どもたちとの「ミルクゼリー」調理実習とその栄養素についての学習会の実施

(3) 乳製品の消費拡大への取り組み

上記3点を目的として取り組みを開始した。

2) 企画

2)-1 村役場訪問

企画グループ総括主幹の長峰氏とグループリーダーの永野氏と面談し、応援して頂くことになった。まずは口頭で「ミルクゼリー」と言ってもイメージが湧かないだろうと思い、実際に市販の牛乳で作った物を持参し、試食してもらったことから始めた。予想通り「おいしい！」との評価を頂く。そこでこれを新郷村の牛乳を使って作って販売したい旨を申し出ると近日中に(財)ふるさと活性化公社主催の「ヨーグルトファン感謝デー」のイベントがあるので、そこでの販売を勧められる。

2)-2 学校給食への導入

須藤村長も試食に加わり、ぜひ学校給食に取り入れてはどうかという提案を頂く。事の

展開に驚くばかりだった。同時に役場職員の方々の熱意も感じられて、自然にこちらもテンションが上がる。

2)-3 調理実習と学習会の提案

小学校の高学年の児童やその保護者の方たちを対象とした「ミルクゼリー」の作り方の実習と牛乳の栄養素である「カルシウム」に関する学習会を実施したいことも申し出たが、こちらは関係筋である教育委員会と検討してからという結論に達した。

3) 実際の取り組み

3)-1 9月17日(土)公社主催「ヨーグルトファン感謝デー」におけるミルクゼリー販売

目的:一人でも多くの村民に「村で生産される牛乳で作った」ミルクゼリーを食べてもらう

方法:前日に学生2人を同行し、実際に販売するミルクゼリー120個を作る。当日それを前日と同じメンバー3人で販売。始めは指定された場所に立って呼び込みをしたが、振り返ってはくれるものの、なかなか売れないので2人の学生が会場内のあちこちを売りに歩くという移動販売に切り替えた。

価格の設定は1個100円にした。当初は150円でもいいのではないかと学生達からの声もあった。というのも学生は市販の牛乳ですでに何度か実習をしていて、それと比較した場合に市販の物より新郷の牛乳を使ったミルクゼリーの方がゼリー全体になめらかさとおるおる感があり「おいしい!!」と絶賛だっ

たのである。確かにいつも私が作るものとは食感が違うとは思っていたが、学生達に指摘されるとは…。おそらく要因は牛乳にあるのだと考えられる。しかし初めて食べる人達にその違いを口頭で伝えることは困難であるため、今回は格安な100円で販売に踏み切った。けれど説明できる人にはできるだけ説明をして新郷村の牛乳のおいしさをPR。

結果：当日の天気はあいにくの曇り空で果たしてミルクゼリーは売れるのかと危惧したが、通常村内で販売している飲むヨーグルト900m/500円がこの日は300円で買えるという宣伝効果のせい、会場には100人を超す人たちが集まっていた。おそらくその方たち全員にアプローチできたのではないかと思う。ポイントは二つ。新郷の牛乳が原料であることと1個100円であることを伝えると、正午には100個を完売した。どの人からも「おいしい！」と評価して頂いたし、その場で食べておいしかったから家族にも買って帰りたいというリピーターもいた。

3)-2 10月25日（火）村内の小学校での講話「骨と歯を作るカルシウム」と調理実習

午前中に西越小学校訪問 児童数60名うち5、6年生の児童14名と教員2名の参加

午後には戸来小学校を訪問 児童数85名うち5、6年生の児童20名と教員3名の参加

両校とも先にミルクゼリーを作り、固まるまでの間の30分間を利用して「骨と歯を作るカルシウム」の学習会を実施。役場・企画グループの長峯氏らと学科の学生1名の計3名を同行する。

*準備するもの…エプロン・三角巾着用

小さめのボール	1個
泡だて器	1本
計量カップ（200cc）	1個
計量スプーン（大さじ）	1個
プリン用カップ（蓋つき）	4個

*材料…4人分

熱湯	50cc
ゼライス	1袋（5g）
上白糖	大さじ5（45g）
牛乳	200cc
みかんの缶詰	1個のプリンカップに4粒位

3)-3 作り方の説明

① お湯を沸かし、そのお湯50ccとゼライス1袋をプラスチックのボールに入れ泡だて器でかき混ぜる。

② そこへ大さじ5(45g)の砂糖を加えて、さらに手早くかき混ぜる。この時、混ぜ合わせていると全体がシュワシュワと泡立ってくるので、そうしたら牛乳200ccを加えてゆっくり大きくかき混ぜる。

③ それらをプリンカップ型（4個）に流し込み、缶詰のみかんを4粒ほど入れたら付属のフタをして冷蔵庫で冷やし固める。

以上を説明した後に実習開始。ちなみに今回は2人で一組になって4人分を作る。

児童たちは緊張の面持ちながら喜々として手を動かす。お湯は火傷の心配があるためやかんで沸かしたものを配って歩く。最後6番目の調理台を回り終えたところで「次に砂糖を入れて下さい」と声をかけると、中ほどのグループの子らが「あれ固まっちゃった…」との声。見れば確かにドロドロ状になっているので湯せんをしてみることにしてそのグループには新たに材料を配分しやり直しても

らう（戸来小）。

湯せんしたものは同行した学生に作るように話し、児童の手順を見て回った。プリンカップに流し込んでみかんを入れる頃になると今まで緊張気味だった子の笑顔がはじけて「みかん少な〜い」とかプリンカップのフタに書く名前を「どう書く？」などの盛りあがりようだった。その後全員が冷蔵庫に入れたことを確認してから固まるまでの30分を利用して「骨と歯を作るカルシウム」について学習会を開始。

3)-4 学習会「骨と歯を作るカルシウム」

学習の内容：児童には牛のイラスト入りでタイトルに「早寝・早起き・朝ごはん」の語句とミルクゼリーの作り方を記載したA4版の紙を配布。用紙の空欄には自分でメモができるように配慮した。

始めに小学校高学年である5・6年生は「思春期」の時期であり、この頃に男女共に心身のめざましい発達があることを説明し、特に体の成長については身長に関係する「カルシウム」の効果を食事摂取基準の目標量で示し、日常の食生活に摂りいれること、さらに「カルシウム」を含む乳製品についての効果的な摂取方法について話した。そしてそれは「早寝・早起き・朝ごはん」という生活リズムが整っていることが前提であることを強調し、成長ホルモンとメラトニンという体内ホルモンの働きについても解説し、たとえ毎日規則正しい食生活ができていたとしても、おやつとしてファストフード（ポテトチップス・ハンバーガー・カップめんなど）や炭酸飲料ばかり摂っているとカルシウムは体内に吸収されずに尿として排出されてしまうことも説

明。これにはちょっとびっくりした表情だったが、さらに乳製品以外にカルシウムが含まれている食べ物はあるか問いかけてみると「ひじき」「きのこ」などの元気な答えがあり、子どもの素直さにこちらも笑顔。内容的に難しいかと思いきや否、両校の児童はきちんとメモを取り、挙句の果てには「ひじきはどれ位食べればいいんですか？」とか「どんな魚にカルシウムが多いですか？」などの質問も出て私の方が驚いた。

3)-5 成人向けの実習と学習会

11月5日（土）新郷村文化祭

当日は村特産品を使った料理コンテストがあり、出品した方々を対象に「ミルクゼリー」の作り方の講習会を開催。料理コンテストそのものは今回で2回目の実施とのこと。昨年は村特産の「しいたけ」が題材だったので出品者多数だったが、今年は題材を自由にしたら出品が少なかったということと小学校田の稲刈りと重なったため、参加者は村の文化祭には10人くらいしかいなかった。が、少人数でも構わないと思い、まずは用意してある材料を自分用に準備して頂き、早速実習開始。新郷村の牛乳を使って手軽で簡単に子どもから高齢者の方でも食べられるおやつが作れること。さらに乳製品を摂取することは「骨粗しょう症」の予防にもなることなどの栄養的効果がある点について話しながらの実習をした。さすがに普段料理を作り慣れている方々なので失敗もなく無事終了。

IV. 成果及び結果報告

1) 「ヨーグルトファン感謝デー」では買って食べて頂いた方々に新郷村の牛乳を使って作った「ミルクゼリー」であることをPRできたが、実際には新郷村の牛乳が800mで400円と高価（市販の牛乳は1ℓ 200円前後）なため市販の牛乳を買う人が多いことがわかった。市販の牛乳に慣れてしまうと濃厚な新郷村の牛乳は日常の牛乳ではなく、特別な牛乳というイメージをもっている人が多いようだ。また初対面で突然「ミルクゼリー」の販売といっても村の人達にしてみたら「誰だろう」「なにを売る人なんだろう」という不信感も多少あったのではないと思う。これを機に村内のイベントにできるだけ参加し顔なじみになるという基盤づくりが必要と判断。仮にそういう活動が定着すれば知名度も上がり、価格も100円から150円に設定できるし、新郷村の牛乳と市販の牛乳の違いも理

解してもらえないはずである。

2) 小学校での調理実習と学習会を体験して、私自身が今までに成人を対象とした講座しか経験していないという理由から作る手順を急がせすぎたと反省している。お湯にしても然り。火傷を心配してこちらで配ってしまったが児童たちに準備させて、熱めのお湯で溶かすことをやって見せればちゃんと固まったはずだ。失敗して途中からやり直した子たちは「ミルクゼリー」が嫌いにならなかっただろうか。それにしてもこちら側の都合とはいえ時間がなくて最後まで見届けることができなかったため「ミルクゼリー」がちゃんと固まったかどうか落ち着かなかった。また児童からの率直な意見も聞きたいと思い、1か月後にアンケート用紙を送付した。その結果を以下に記載する。

＜アンケートの結果から…31名の回答＞

	質問事項	はい	いいえ	無回答
1)	作り方は難しかったか	2	29	0
2)	作り方は理解できたか	31	0	0
3)	食べた時固まっていたか	27	2	2
4)	家でも作ってみたいと思ったか	31	0	0
5)	実際に家でも作ったか	12	19	0
6)	講話の内容はわかりやすかったか	26	5	0
7)	どんなところがわかりやすかったか（自由記述） ・カルシウムについて ・成長ホルモンが出る時間 ・早く寝ないと背が伸びなくなること ・大人の体に近づいている私たちのことを使ってわかりやすかった ・ビタミンDを摂らないとカルシウムが吸収されないこと …などの回答があった。			
8)	全体的な感想として ・おいしいのでまた作りたい ・カルシウムの大切さがよくわかった ・家でも作りたい ・よく寝るということに気づいた …などの意見が書かれていた。			

上記からも推察できるが、児童たちにとって自分で簡単に作れるミルクゼリーが「自分たちの体を作る栄養素」であることが学習できたようだ。この学習から牛乳の必要性を学び、さらには「早寝・早起き・朝ごはん」を

繰り返す日常の生活リズムの大切さもまた理解できたものと考えられる。また今後は他の学年の子はもちろんだが、より多くの子どもたちへのアプローチが必要と思われる。

V. ま と め

今回の取り組みから新郷村の特産品は「飲むヨーグルト」だけでなく、しいたけ・長いも・にんにく・ハックルベリーなどがあり、それらの食材が村から至る所へ届けられていることがわかった。恐らくこれらは今もお農業や酪農に長い間取り組んで来られた方々の成果なのだろう。とすれば、これを絶やさず続けていくためには後継者の育成をしなければならぬ。それが今後の新郷村の課題であると考えられる。

また乳製品の消費拡大に関しては今後も引き続き「新郷プロジェクト」で取り組んだ内容を念頭において八戸市及び近隣市町村でも取り組みをしなくてはならないと考える。今回は新郷村の「牛乳」に拘ってミルクゼリーの試作販売をしたものの生産農家に限りがあること。新郷村の牛乳を使って試作販売することは新郷村の牛乳の消費拡大に繋がるかもしれないが、他の地域の消費拡大に繋がるとは考えにくいので、新たな方法を検討する必

要がある。

さらに私達の食世話が「飽食」と言われるようになって久しい。が、それは体に必要な栄養素が充足しているということではなく、実際には偏食、過食、欠食、野菜不足などの問題や高齢者の低栄養についても危惧されている。その一方で「肥満」や「生活習慣病予防」の旗印を掲げ過剰栄養についての警鐘も鳴らし続けている。主食と主菜ばかり食べて副菜の野菜は食わず、学校給食を卒業したとたん牛乳も卒業して炭酸飲料やスポーツドリンクに替えてしまう。結果、ビタミンやカルシウムなどのミネラル不足になっている。これが現状ではないだろうか…。

最後に、須藤村長が提案されたように学校給食への「ミルクゼリー」の導入についてはぜひご検討頂きたい。将来的には牛乳の消費拡大や新郷村の「地産地消」にも繋がり、やがては新郷村の特産品として注目されるかも知れない。

引用・参考資料

- 学乳スクエア：日本の牛乳消費量から「酪農と乳業」 <http://www.j-milk.jp/gakunyu/>
2009年 総務省・家計調査より「牛乳消費量」
- 青森県庁 H.P <http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/nosui/files/H22toall.pdf>
- 新郷村 H.P <http://www.vill.shingo.aomori.jp/>
- とどラン H.P <http://todo-ran.com/t/kiji/13556>

市町村別主要農林水産業指標 ①

市町村名	総農家数(戸) (17年)					農業就業人口(人) (17年)										
	総農家	販売農家	兼業			男女計	男					女				
			専業	第1種	第2種		男子計	15~29	30~59	60~64	65歳以上	女子計	15~29	30~59	60~64	65歳以上
青森市	4,096	3,231	656	738	1,837	5,850	2,718	214	616	254	1,634	3,132	147	966	443	1,576
弘前市	8,198	7,301	2,148	2,758	2,395	16,234	7,790	552	3,040	757	3,441	8,444	385	3,463	1,047	3,549
(旧)弘前市	6,287	5,575	1,639	2,076	1,860	12,270	5,892	412	2,292	582	2,606	6,378	269	2,624	812	2,673
(旧)岩木町	1,353	1,200	322	423	445	2,629	1,243	84	479	125	555	1,386	68	545	150	623
(旧)相馬村	558	526	177	259	90	1,335	655	56	269	50	280	680	48	294	85	253
八戸市	3,553	2,256	437	323	1,460	4,205	1,782	161	421	202	998	2,423	139	754	307	1,223
黒石市	2,108	1,688	300	545	843	3,336	1,615	153	505	152	805	1,721	92	627	193	809
五所川原市	3,410	2,898	719	856	1,323	5,370	2,620	230	798	278	1,314	2,750	128	1,024	378	1,220
十和田市	3,586	3,248	628	770	1,850	5,903	2,558	221	689	257	1,391	3,345	196	1,048	335	1,766
三沢市	785	697	189	255	253	1,428	659	50	227	68	314	769	42	285	86	356
むつ市	1,100	516	181	48	287	831	377	17	70	31	259	454	10	101	56	287
つがる市	4,364	4,162	843	1,423	1,696	7,402	3,665	271	1,347	402	1,645	3,737	151	1,562	520	1,504
平川市	3,436	2,854	522	796	1,536	5,311	2,502	203	769	255	1,275	2,809	130	959	360	1,360
(旧)尾上町	913	747	116	198	433	1,243	569	48	147	61	313	674	25	218	81	350
(旧)平賀町	2,322	1,947	369	559	1,019	3,734	1,773	143	588	175	867	1,961	98	696	245	922
(旧)碓ヶ関村	201	160	37	39	84	334	160	12	34	19	95	174	7	45	34	88
平内町	680	473	68	48	357	618	282	34	44	17	187	336	31	74	25	206
今別町	336	131	39	15	77	213	82	6	14	11	51	131	5	39	13	74
蓬田村	340	284	35	87	162	448	206	12	54	23	117	242	21	77	38	106
外ヶ浜町	372	204	31	22	151	272	122	8	19	11	84	150	8	37	18	87
鱸ヶ沢町	1,039	914	200	253	461	1,658	786	65	223	77	421	872	33	308	90	441
深浦町	919	635	131	60	444	850	361	24	34	23	280	489	16	109	61	303
西目屋村	239	182	33	39	110	345	167	17	41	15	94	178	13	47	21	97
藤崎町	1,533	1,324	307	474	543	2,597	1,257	97	425	121	614	1,340	63	482	174	621
大鰐町	878	680	132	228	320	1,365	655	32	204	58	361	710	20	242	115	333
田舎館村	1,011	830	140	198	492	1,507	659	58	174	64	363	848	57	252	120	419
板柳町	1,700	1,629	508	665	456	3,457	1,676	100	641	192	743	1,781	94	731	219	737
鶴田町	1,501	1,370	426	570	374	2,924	1,433	80	561	166	626	1,491	69	611	184	627
中泊町	1,154	1,040	127	351	562	1,521	742	48	253	81	360	779	29	320	122	308
野辺地町	264	131	51	24	56	252	115	6	36	10	63	137	7	54	20	56
七戸町	1,763	1,502	246	277	979	2,377	1,037	85	251	119	582	1,340	59	448	168	665
六戸町	1,130	1,011	195	292	524	1,806	833	60	254	76	443	973	47	331	96	499
横濱町	362	242	54	73	115	434	220	26	78	15	101	214	9	78	30	97
東北町	2,225	2,013	409	440	1,164	3,232	1,487	125	500	159	703	1,745	88	664	202	791
六ヶ所村	389	314	108	102	104	671	344	32	149	33	130	327	16	139	42	130
おいらせ町	1,162	925	223	164	538	1,625	748	60	228	73	387	877	43	302	108	429
(旧)百石町	600	488	136	96	256	879	408	33	133	43	199	471	23	167	56	225
(旧)下田町	562	437	87	68	282	746	340	27	95	30	188	406	20	135	52	199
大間町	203	52	1	1	50	78	24	1	2	1	20	54	1	15	6	32
東通村	527	314	62	33	219	440	203	16	43	15	129	237	13	66	23	135
風間浦村	84	17	-	-	17	23	8	3	2	-	3	15	1	4	5	5
左井村	154	27	8	6	13	37	15	-	5	3	7	22	0	5	3	14
三戸町	900	792	327	254	211	2,017	963	80	402	89	392	1,054	31	442	94	487
五戸町	2,103	1,720	436	405	879	3,123	1,410	94	371	173	772	1,713	56	541	208	908
田子町	872	738	170	241	327	1,497	676	49	213	62	352	821	33	278	81	429
南部町	2,043	1,638	485	388	765	3,313	1,501	105	502	162	732	1,812	54	675	188	895
(旧)名川町	1,021	813	240	225	348	1,662	748	48	271	81	348	914	26	348	95	445
(旧)南部町	426	349	145	105	99	847	415	24	166	47	178	432	7	195	42	188
(旧)福地村	596	476	100	58	318	804	338	33	65	34	206	466	21	132	51	262
階上町	491	270	47	33	190	494	206	22	37	15	132	288	8	72	30	178
新郷村	577	537	129	176	232	1,102	481	27	147	48	259	621	28	205	78	310
東青	5,824	4,323	829	910	2,584	7,401	3,410	274	747	316	2,073	3,991	212	1,193	537	2,049
中南	17,403	14,859	3,582	5,038	6,239	30,695	14,645	1,112	5,158	1,422	6,953	16,050	760	6,072	2,030	7,188
西北	14,087	12,648	2,954	4,178	5,516	23,182	11,283	818	3,857	1,219	5,389	11,899	520	4,665	1,574	5,140
上北	11,666	10,083	2,103	2,397	5,583	17,728	8,001	665	2,412	810	4,114	9,727	507	3,349	1,087	4,784
下北	2,068	926	252	88	586	1,409	627	37	122	50	418	782	25	191	93	473
三戸	10,539	7,951	2,067	1,820	4,064	15,751	7,019	538	2,093	751	3,637	8,732	349	2,967	986	4,430
県計	61,587	50,790	11,787	14,431	24,572	96,166	44,985	3,444	14,389	4,568	22,584	51,181	2,373	18,437	6,307	24,064

資料：農林業センサス

市町村別主要農林水産業指標 ②

	18年農業産出額（単位：千万円）										
	合計	耕種計					畜産計				
			米	野菜	果実	花き		肉用牛	乳用牛	豚	鶏
青森市	1,389	1,336	448	216	636	11	54	10	x	x	x
弘前市	3,838	3,771	414	198	3,036	39	66	x	8	51	x
八戸市	1,491	644	139	248	108	26	845	37	16	231	556
黒石市	869	818	163	98	526	15	50	x	x	-	x
五所川原市	1,206	1,176	652	120	331	18	30	6	x	9	x
十和田市	1,746	1,102	466	542	5	3	644	160	27	408	45
三沢市	1,418	641	55	550	0	0	777	32	19	320	405
むつ市	396	104	15	75	1	0	292	12	79	21	x
つがる市	2,055	1,887	1,026	613	165	13	168	73	x	91	-
平川市	1,061	1,044	260	163	573	16	16	x	-	x	x
平内町	112	94	66	22	0	1	18	4	14	-	-
今別町	48	32	15	11	0	2	16	x	-	-	-
蓬田村	239	103	71	29	0	-	137	x	x	-	x
外ヶ浜町	50	46	29	14	0	0	4	1	x	x	-
鱒ヶ沢町	352	342	121	91	113	1	9	x	3	x	x
深浦町	124	118	56	55	1	0	5	5	-	-	-
西目屋村	65	64	14	91	41	0	x	-	-	-	-
藤崎町	589	554	166	83	286	7	35	-	-	x	x
大鰐町	392	389	29	27	326	1	3	-	-	-	x
田舎館村	269	268	110	55	84	10	x	-	x	-	-
板柳町	636	636	156	31	434	2	1	x	-	-	-
鶴田町	627	598	188	36	355	0	30	-	-	29	-
中泊町	396	395	319	40	4	4	1	x	-	x	-
野辺地町	90	57	9	42	0	0	33	2	18	x	x
七戸町	645	478	176	273	2	3	167	129	x	29	-
おいらせ町	848	539	76	446	0	1	309	x	x	60	222
六戸町	739	562	127	399	1	x	227	17	x	184	x
横浜町	974	93	20	137	0	0	881	22	48	310	x
東北町	1,376	1,001	137	780	0	2	375	x	182	72	x
六ヶ所村	545	340	15	229	-	x	205	29	165	x	x
大間町	7	5	1	2	-	-	2	2	-	-	-
東通村	79	50	16	25	0	0	29	12	17	-	-
風間浦村	1	1	0	1	-	-	-	-	-	-	-
佐井村	7	6	1	4	-	0	1	1	-	-	-
三戸町	815	484	56	85	142	5	330	15	x	x	157
五戸町	963	597	118	349	87	4	365	38	x	10	296
田子町	648	305	48	115	8	10	343	19	x	11	305
南部町	1,014	788	76	196	445	8	219	23	x	20	172
階上町	366	86	14	55	1	5	280	9	11	81	179
新郷村	314	243	27	167	2	11	71	39	27	x	-
東青	1,838	1,610	630	293	636	14	228	20	23	8	127
西北	5,396	5,152	2,158	985	1,401	39	244	87	7	133	x
中南	7,083	6,909	1,157	631	4,871	89	171	10	9	60	83
上北	8,431	4,813	1,079	3,297	9	93	3,618	484	477	1,402	1,250
下北	490	166	33	107	1	1	323	27	95	21	x
三戸	5,610	3,146	478	1,214	792	70	2,455	180	81	511	1,665
県計	28,850	21,800	5,890	6,530	7,710	300	7,040	810	690	2,140	3,300

資料：農林業センサス